

放課後等デイサービスガイドライン自己評価表

回答率

事業所職員： 5名回答、回答率 100%

保護者様： 17名回答、回答率 90%

職員の意見

○環境・体制整備

- ・環境面について、課題や体を動かすスペースを分けることで児童が過ごしやすい環境になるように配慮している。毎日の清掃と換気で過ごしやすい環境作りに努めているが、個室のスペースがないため、パーティションなどを用いて、さらに落ち着いて過ごせるように整備を進める必要がある。
- ・基準や加算を守った配置を行っている。送迎時間に人員が多く必要になる場面があるため、引き続き人員確保や、職員それぞれの役割分担などを工夫をしていきたい。

○業務改善

- ・常勤職員は、定期的に業務分担について見直しのミーティングを行うことで業務分担が適切になるように調整をし、お互いに助け合える仕組みづくりを検討している。非常勤も交えて職員間で意見交換をする時間を設ける事で支援・業務の改善に取り組んでいる。
- 定期的な教室研修を実施している。療育や安全管理などの研修をWEBで受講し、学んだことを職員間で共有することで知識を深めるように努めている。

○適切な支援の提供

- ・アセスメントを基に個別支援計画書の作成を行っており、指導員全員の意見を取り入れながら作成ができています。また、個別支援計画書を作成のタイミングで、児童それぞれの個別課題の見直しをしていくことでそれぞれに適した課題にブラッシュアップをしている。
- ・集団活動に関しては、全職員が療育活動の立案をしており、偏りがない支援の実施をしている。

○関係機関や保護者との連携

- ・必要に応じて地域の療育センターや学校と連携をしており、児童が包括的に支援を受けられるように努めている。保護者とは保護者会や日々の連携のほかに、家族相談を通じて連携を強めている。

○保護者への説明責任等

- ・メールやお手紙でのお知らせ以外にも、家族相談を定期的実施し、何かあった際には説明を行い、難しい場合には送迎時に対面で説明を行っている。また、教室での過ごし方については、ニュースレターのほかに、年1~2回療育参観も踏まえて保護者会の実施している。

○非常時等の対応

- ・毎月避難訓練を行っており、保護者からの情報に基づいてアレルギー表を作成し、非常時にも対応ができるように努めている。

保護者様のご意見

○環境・体制整備

・職員体制について適切であるか「わからない」「どちらともいえない」という意見が31%程あったため、保護者により安心していただけるように職員の人数だけではなく、より手厚い支援と感じていただける様な支援面での工夫をしていきたい。

○適切な支援の提供

・児童のことを十分に理解して課題や個別支援計画書が作成されているという意見が多く、「児童の特性に合わせて対応方法を検討いただいている」とご意見をいただいた。地域との交流については現状、買い物等のみになっているため、どうやって交流を深めていくかは今後課題として考えていきたい。

○保護者への説明等

・必要事項があった際には、丁寧な説明がなされているという意見が多くあった。定期的に面談や家族相談支援を通じての支援もある為「いつも色々話を聞いていただき、深い共感と共に心がこもった返答、アドバイスも含めながら誠実に対応くださり、本当に感謝しています。スマートキッズプラス川崎に通うことになって本当に良かったです！いつもありがとうございます。」という言葉もいただいた。

○非常時等の対応

・非常時に必要な訓練はされているというご意見が9割あったが、「対応状況がわからないことがある」といったご意見もあった為、どの様なことを行っているかニュースレター以外でも保護者会などで発信し、すべての保護者と連携がとれるように努めていく。

○満足度

すべての方から「事業所の支援に満足している」と意見をいただいている。「子どもの特性により通所を楽しみにできていない」という意見もある一方「いつも企画を楽しみにしています」とのご意見もいただいた。それぞれの児童と向き合いながら、今後もさらに満足していただけるよう努めていきたい。

昨年度の振り返り

○今年度の取り組む具体策

- ・ヒヤリハット報告書の作成を毎月1件は作成し、ミーティングでヒヤリハットを共有する日を決めることで安定して共有出来るようになる。
- ・ブログの件数を月に2件等定めることで、療育MTGの際にブログにする内容を確定させ、定期的に更新していくことで支援の『見える化』を図る。
- ・保護者が安心して相談支援を利用できるように、日頃の送迎時から保護者との情報共有を丁寧に行っていく。
- ・緊急時対応について、BCPの内容について教室内研修や読み合わせを行い、全員が対応方法を理解している状態を作る。

○改善できた点・まだ残る課題

- ・保護者との家族相談を行うことで情報共有を細かく行うことができた。
- ・緊急時対応について、教室内研修を通じて定期的に内容の確認を行うことができた。
- ・ブログの更新やヒヤリハットの作成は目標数に至らなかった。担当者の設定、更新頻度や作成頻度の設定などの工夫を行い、定期的な作成を行っていきたい。

アンケート結果からみる教室の強み・改善点

○教室の強み

- ・児童の特性に応じた支援を検討し、実施することができている。
- ・職員全員が集団療育活動を実施することで、療育の幅を広げる工夫をしている。
- ・利用者と保護者に寄り添った支援を行う為に、個別に相談できる時間を設け、家族支援の充実を図っている。
- ・すべての保護者から支援に満足をしているという評価をいただいている。

○改善点

- ・クールダウンをするためのスペースは作っているが、空間が区切れるようなパーテーションの設置ができていないため、環境改善を行う必要がある。
- ・児童の下校時間によってはミーティングを実施することが難しいこともあるが、短時間でも職員間で情報を共有する時間を作る必要がある。
- ・ブログを定期的に更新し、支援の様子をお伝えする仕組み作りを行う必要がある。
- ・ヒヤリハットについて、職員全員が安全面を意識し、しっかりと書面に残して共有する仕組みを作る必要がある。

中長期的な改善計画・1年間で取り組む具体策

○中長期的な改善計画

- ・クールダウンスペースの整備を行い、児童がより安心して過ごせる居場所を確保する。
- ・ヒヤリハット作成をし、対策を検討する機会を作ることで安全な事業所運営につなげていく。
- ・保護者や地域の方にも開けた教室づくりをする。
- ・支援前のミーティングや支援後の振り返りなどを定期的に行い、職員全員が支援の方向性を統一できるようにする。

○1年間で取り組む具体策

- ・課題に集中できるよう、テーブル用のパーテーションの導入を行う。
- ・クールダウンスペースでどこが適切なのかを再度検討する。落ち着くまで、子供の様子を常に確認できるように指導員の配置も合わせて検討し、安心して過ごせる環境づくりを行う。
- ・ヒヤリハットを全職員が確認できるように積極的に発表が行えるようにする。ミーティングを行う時間を短時間でも設け、情報共有の時間を設ける。
- ・開かれた教室作りを目指し、「ブログの更新月1度」を徹底する。
- ・家族相談をすべてのご家庭に実施し、支援の方向性を定めていけるように実施を行うことで、児童への支援方法に相違がないように努める。
- ・支援計画書に沿った対応を徹底して対応できるよう、振り返りやミーティングの機会を多く設け、支援の方向性のすり合わせを密に行う。